



## Netfinity 5500 に関する新規情報

この技術更新には、本 Netfinity 5500 サーバーに関する以下の新規情報が含まれています。

- ホット・プラグ PCI の使用可能化
- ネットワーク・オペレーティング・システムの説明
- 西暦 2000 年対応
- registered DIMM のジャンパー設定
- サポートされているマイクロプロセッサ
- マイクロプロセッサ・コアの周波数選択
- マイクロプロセッサの取り付け
- システム・ボード・ジャンパーの訂正
- POST エラー・メッセージの訂正
- 問題判別表の訂正

**ホット・プラグ PCI の使用可能化:** 本 Netfinity 5500 にはホット・プラグ PCI 機能があります。この機能を使用可能にするには、ホット・プラグ PCI サポート・コード用のオペレーティング・システム・サービスをインストールする必要があります。オペレーティング・システムのホット・プラグ PCI サポート・コードを入手するには、次の Web サイトにアクセスして、

<http://www.pc.ibm.com/support>

「IBM サーバー・サポート (IBM Server Support)」をクリックします。「ファミリーの選択 (select family)」フィールドから、「Netfinity 5500」をクリックします。「ダウンロード可能ファイル (Downloadable files)」をクリックします。

添付されているテキスト・ファイルの指示に従って、該当のファイル (1 つまたは複数) をダウンロードしてインストールします。これによって、ホット・プラグ操作が可能になります。

### 重要:

ホット・プラグ操作はすべて、必ずオペレーティング・システム・コンソール (あるいはサポートされているユーザー・インターフェース) から行ってください。これ以外の方法で操作すると、システムが停止してしまったり、アダプター・カードやシステム装置が重大な損傷を受けるおそれがあります。

**ネットワーク・オペレーティング・システムの説明:** ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールに ServerGuide を使用しない場合は、各システムごとの NOS インストール説明とデバイス・ドライバーを入手する必要があります。

NOS インストール説明、デバイス・ドライバー、システム・コード更新、および White Papers を入手するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.pc.ibm.com/support>

「IBM サーバー・サポート (IBM Server Support)」をクリックし、「ファミリー選択 (select family)」フィールドから「Netfinity 5500」をクリックします。

- システムごとの NOS インストール説明を入手する方法: 「ソフトウェア情報 (Software Information)」をクリックします。
- 本 Netfinity 5500 の最新のデバイス・ドライバーおよびシステム・コード更新 (たとえば、BIOS、Advanced System Management、ServeRAID、診断など) を入手するには、「ダウンロード可能ファイル (Downloadable files)」をクリックします。
- ホット・プラグ PCI、Netfinity Advanced System Management プロセッサや、その他のトピックに関する追加情報を入手するには、「オンライン資料 (Online Publication)」をクリックしてから、「White Paper」をクリックします。

**西暦 2000 年対応:** Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの西暦 2000 年対応に関する記述は、下記の内容に置き換えますので、よくお読みのうえ 2000 年対応を実施してくださるようお願いいたします。

*西暦 2000 年問題に対する IBM の取り組みについて:* 2000 年問題とは西暦年を4桁ではなく下 2 桁 (例: "1999" の場合 "99") の記述によって、コンピュータが処理している場合、西暦 2000 年以降またはそれ以前でも、2000 年以降の西暦年のデータに付いて正常な処理が行われなくなる、あるいはこのため 1999 年 12 月 31 日をコンピュータが正しく機能しなくなるという問題です。西暦 2000 年問題の及ぶ範囲は、大型コンピュータだけに限らず、ご家庭で使用する PC にも及びます。PC においても、誤った日付データの解釈によりファイル作成日付、ローン計算、スプレッドシートの情報を始めとして広く影響を及ぼすおそれがあります。

弊社では次の定義をもって西暦 2000 年対応製品としています。

「ある製品がその製品の説明書にしたがって使用された場合に、20 世紀から 21 世紀にかけての日付データの処理、引き渡し、また受け取り (あるいはそれらすべて) を正しく行うことができること。ただし、その製品とともに使用されるすべての製品 (たとえば、ハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェア) が正確な日付データをその製品と正しく交換できることが条件です。」

**Netfinity 5500 の場合:** この IBM Netfinity ハードウェア製品は、西暦 2000 年対応製品です。(オペレーティング・システムについては、次項をご参照ください。) Netfinity 5500 は 15 分毎にシステム・クロック内の世紀バイトの同期を自動的におこないます。

従って、更新を行うために、西暦 2000 年 1 月 1 日あるいはそれ以降にシステムを再起動したり、新しい日付と時刻を入力する必要は、ありません。ただし、ご使用中のサーバーにおいて、アプリケーション要件上の理由 (西暦 2000 年を迎えてから、初めて Netfinity が自動的に世紀バイトの同期を行うまでの間に、日付処理を伴うようなアプリケーションが稼働している場合など) などにより 2000 年 1 月 1 日午前 0 時丁度に世紀バイトの更新変更を行う必要がある場合は、手動でシステムを再起動するか、新しい日付と時刻を入力して、更新を実施する必要があります。

**ユーザーのソフトウェアとデータ:**

この IBM Netfinity は、この製品とともに使用されるソフトウェアやデータの交換先のソフトウェアが 2000 年対応されていないことに起因するエラーを防ぐことはできません。ご購入のこの Netfinity に付属されている IBM ソフトウェアは 2000 年対応製品です。オペレーティング・システム及びその他のソフトウェアは他社より提供されています。IBM は、これらの他社製ソフトウェアの 2000 年対応について責任を負うものではありません。それら他社製ソフトウェアの 2000 年対応状況、制限事項の確認、およびアップデートされたソフトウェアにつきましては直接各メーカーにお問い合わせください。[ メーカーの URL アドレス・リストを IBM の西暦 2000 年対応の WEB サイト (下記参照) に掲載しています。一部掲載されていないメーカーもありますが、掲載内容は随時更新されます。]

また、ご購入のこの Netfinity にコピーするデータもエラーの原因になる可能性がありますのでご注意ください。例えば、それはご自分のスプレッドシートやデータベースファイルの日付データの西暦年を 2 桁形式で作成した時かもしれません。

詳しい情報の入手:

2000 年問題に関する情報は刻々と変化しています。IBM は情報を収集すると同時に、この問題を解決する為にもっとも有効な方法を追求していきます。お客様におかれましても 2000 年への移行のために役立つ最新の情報、製品、およびテクノロジーを様々な手段により収集されることをお勧めします。

IBM Netfinity 製品および西暦 2000 年対応に関してより詳しい説明を希望される場合は、弊社の Web サイト (<http://www.pc.ibm.com/year2000>) にアクセスしてください。そこに紹介されている情報およびツールは、西暦 2000 年への移行計画、特に複数の IBM サーバーをお持ちの場合の移行計画を作成する場合に役立てることができます。IBM では、更新情報を定期的にチェックされるようにお勧めしています。

**Registered DIMM のジャンパー設定:** お持ちのサーバーに 256 MB (registered) のメモリー・モジュールを取り付けている場合は、プロセッサ・ボード上のジャンパー・ブロック J12 のピン 2 および 3 にジャンパーが取り付けられているか確認してください。ジャンパー・ブロック J12 の位置については、そのサーバーのシステム・サービス・ラベルを参照するか、Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックを参照してください。

**サポートされているマイクロプロセッサ:** この情報は、Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「機能の概要 (Features at a Glance)」および「IBM Netfinity 5500 の機能 (What Your IBM Netfinity 5500 Offers)」を更新します。

IBM Netfinity 5500 サーバーは、MMX(TM) テクノロジーを持つ Intel(R) Pentium(R) II または Pentium III マイクロプロセッサをそれぞれ最高 2 つまでサポートします。お持ちのサーバーのシステム・ボードには、Pentium II または Pentium III のマイクロプロセッサが 1 つ取り付けられています。サーバーに複数のマイクロプロセッサを取り付けて、パフォーマンスを向上させ、SMP 機能を使用できるようにすることも可能です。

マイクロプロセッサ・コアの周波数選択: Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「プロセッサ・ボード・ジャンパー (Processor Board Jumpers)」では、以下の表項目が変更されます。

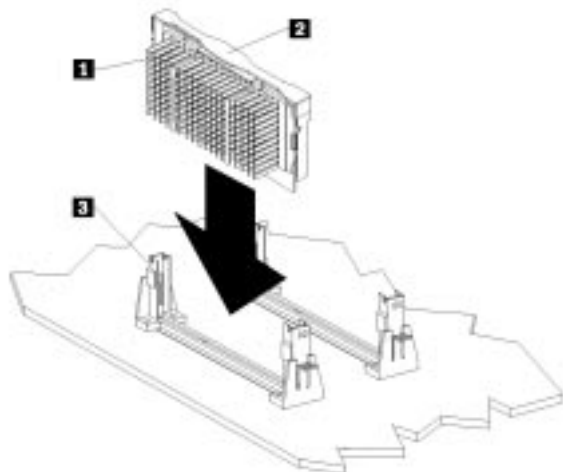
ジャンパー名	説明
<b>1</b> ~ <b>4</b> マイクロプロセッサ・コアの周波数選択 (J27 ~ J30)	<p>コア / バスの比率が 3.5 (350/100 MHz) の場合、ジャンパーは J27 および J30 のピン 1 および 2 に取り付けられています。J28 および J29については、それらのピン 2 および3 にジャンパーが取り付けられているか、あるいはジャンパーはまったく取り付けられていません。</p> <p>コア / バスの比率が 4 (400/100 MHz) の場合、ジャンパーは J28、J29、および J30 のピン 1 および 2 に取り付けられています。J27 については、そのピン 2 および 3 にジャンパーが取り付けられているか、あるいはジャンパーはまったく取り付けられていません。</p> <p>コア / バスの比率が 4.5 (450/100 MHz) の場合、ジャンパーは J28 と J30 のピン 1 および 2 に取り付けられています。J27 および J29 については、それらのピン 2 および 3 にジャンパーが取り付けられているか、あるいはジャンパーはまったく取り付けられていません。</p> <p>コア / バスの比率が 5 (500/100 MHz) の場合、どのようなジャンパー設定も無視されます。コアの周波数は自動的に設定されます。</p>

マイクロプロセッサの取り付け: この情報は、Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「マイクロプロセッサ・キットの取り付け (Installing a Microprocessor Kit)」のマイクロプロセッサの取り付け説明を補足するものです。

マイクロプロセッサを取り付ける場合、以下の手順で行ってください。

1. Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「マイクロプロセッサ・キットの取り付け (Installing a Microprocessor Kit)」の説明に従って、サーバーの準備をし、ターミネーター・カードを取り外します。
2. マイクロプロセッサを取り付けます。
  - 新しいマイクロプロセッサが入っている静電防止パッケージを、サーバー上のいずれかの塗装されていない金属面に触れさせてから、マイクロプロセッサをそこから取り出します。

- マイクロプロセッサ **1** をマイクロプロセッサ・コネクタ **3** に合わせます。ここで、マイクロプロセッサの方向と位置が正しく合っていることを確認してください。



- マイクロプロセッサをカチッと音がするまでコネクタ内に押し込み、コネクタにしっかりと固定します。

3. Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「マイクロプロセッサ・キットの取り付け (Installing a Microprocessor Kit)」に戻り、電圧調整モジュール (VRM) を取り付けて作業を完了します。

注: マイクロプロセッサをコネクタから取り外すには、マイクロプロセッサ・アダプターの中央 **2** をつかんでまっすぐに引き上げた状態で、コネクタからマイクロプロセッサを持ち上げて外します。

### システム・ボード・ジャンパーの訂正

ジャンパー名	説明
<b>23</b> システム管理プロセッサの使用不可 (J51)	通常の動作では J51 にはジャンパーはありません。J51 にジャンパーを取り付けると、システム管理プロセッサが使用不可になります。

### POST エラー・メッセージの訂正

以下の POST エラー・メッセージは、Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックのメッセージ 1600 を置き換えます。

- 1600 システム管理プロセッサが機能していません。

処置:

1. システム・ボードのジャンパー・ブロック J51 にジャンパーが取り付けられている場合は、それを外します。
2. システム・ボード上のシステム管理プロセッサ・エラー LED (CR24) が点灯していない場合、すべての電源からサーバーを切断し、30 秒待ってからサーバーをもう一度電源に接続し、サーバーを再起動します。
3. システム・ボード上のシステム管理プロセッサ・エラー LED (CR24) が点灯している場合、システムの修理を依頼してください (LED の位置に関しては、418 ページの「システム・ボード構成部品の位置 (System Board Component Locations)」を参照してください)。

問題がなくなる場合、システムの修理を依頼してください。

以下の POST エラー・メッセージが追加されました。

- 1601 システム管理プロセッサ BIOS を更新する必要があります。

処置:

1. すべての電源からサーバーを切断し、30 秒待ってからサーバーをもう一度電源に接続し、サーバーを再起動します。
2. 問題がなくなる場合、システム管理プロセッサ BIOS を更新します。Web からの更新の入手方法については、第 9 章「ヘルプ、サービス、および情報の入手 (Getting Help, Service, and Information)」を参照してください。

問題がなくなる場合、システムの修理を依頼してください。

- 00012000 プロセッサのマシン・チェック

処置:

1. システム BIOS を更新します。Web からの更新の入手方法については、第 9 章「ヘルプ、サービス、および情報の入手 (Getting Help, Service, and Information)」を参照してください。
2. 問題がなくなる場合、マイクロプロセッサを交換してください。

- ビープ・コード 3-3-2 I2C バスに障害が起こっています。

処置: サーバーの電源をオフにしてから、サーバーを再起動します。問題がなくなる場合、システムの修理を依頼してください。

問題判別表の訂正: Netfinity 5500 ユーザーズ・ハンドブックの「問題判別表」の「統合 ServeRAID II コントローラーの問題」が以下に置き換えられます。

内蔵 ServeRAID II コントローラー の問題	処置:
POST で、ServeRAID II BIOS のロード時に、ドライブが応答しないか、エラーが報告された。	<p>システム・ボード上の RAID システム・エラー LED (CR32) が点灯している場合、システムの修理を依頼してください。</p> <p>システム・ボード上の RAID システム・エラー LED (CR32) が点灯していない場合、システム・ボード上の RAID チャンネル 1 エラー LED (CR30) および RAID チャンネル 2 エラー LED (CR31) をチェックします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CR30 または CR31 のいずれかが点灯し、明滅していない場合、システムの修理を依頼してください。</li> <li>2. CR30 または CR31 が 3 回または 6 回明滅して休止するパターンで明滅している場合、ServeRAID II コントローラー・マイクロコードを更新します。WWW からの更新の入手方法については、第 9 章「ヘルプ、サービス、および情報の入手 (Getting Help, Service, and Information)」を参照してください。</li> </ol> <p>問題がなくなる場合、システムの修理を依頼してください。</p> <p>注: システム・ボード上の LED の位置に関しては、418 ページの「システム・ボード構成部品の位置 (System Board Component Locations)」を参照してください。</p>

---

## 情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

電波障害自主規制 届出装置の記述

注意:

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

**27L3322**

Printed in Japan.

**© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 1999 All rights reserved.**

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBM がこのような IBM 製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。